

（協働版）

※（協働版）とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです

■上賀茂学区 (神社周辺)

凡例： まち歩きやヒアリングによる情報等 文献等による情報

伝統・文化

■社家町

上賀茂神社の神官、あるいは神社に仕える人たちの町並みが現在も残る、全国でも唯一の社家町である。社家は神主、禰宜など五官、二十一職の社人と仕える人々の氏人に分かれる。350年前の記録では275軒の社家があった。1-1)

二葉葵
二葉葵は上賀茂神社の神紋として用いられている。社家そして地域の方々に大切にされている。1-2)



1 御蔭橋

賀茂川にはその昔、橋は架かっておらず、神社への奉仕に通うために、賀茂川で禊（体を清め）、本社に参拝していた。御蔭橋とはもともとは仮の橋のことで、斎王のお参り（葵祭）や天皇行幸の折に仮橋がかけられ、やがて、孝明天皇の行幸以来、仮橋から本橋が架けられた。1-3)

令和元年8月現在、橋の耐震性や機能性の確保のため、周辺景観と調和するデザインの橋の架替え工事を進めている。



■お祭り・伝統行事



賀茂競馬 ※1 やすらい祭 ※1

さんやれ祭（幸在祭）

2月24日、上賀茂地域の農家の十五歳の男子の元服を祝う農業行事。11月から山の神であった神が田の神へと変神される日で、子どもたちが年齢によって役割を担い、囃しながら大田神社、上賀茂神社へと練り歩き「あがり」を神様に奉告する。神鎮送（荒神を鎮める儀式）でもある。

上賀茂紅葉音頭

江戸時代中期に御所で成立し、明治以降、上賀茂、松ヶ崎、一乗寺、下鴨に広まった。庶民の間で流行した踊りや音頭に起源をもち、9月重陽の節句に近い週末の夜に上賀茂神社の鳥居前で踊られる。1-4)



■すぐきの文化

すぐきは、300年もの長い伝統をもつ京都を代表するつけものであり、江戸時代には、上賀茂神職の社家の屋敷内のみで栽培・加工し、自家用や貴族へお届けする自慢の贈り物として珍重され、種などを他所へ持ち出すことは禁じられていた。1-5)



2 上加茂民芸協団

昭和2年に柳宗悦、黒田辰秋らが主体となり、この地で民芸活動の原点となる「上加茂民芸協団」を創設した。

【周辺の特徴】

・明神川に沿って美しい社家が建ち並び、社家町としての町並みが現在も残る唯一の地区として、昭和51年京都市の伝統的建造物群保存地区決定、昭和63年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。

・東は深泥池、南は植物園、西は賀茂川と豊かな自然に恵まれた地域。
・世界文化遺産に登録された上賀茂神社、カキツバタで有名な大田神社など、土地に根付いた信仰の神社や祠がたくさん存在し、年中さまざまなお祭りや行事が催されている。



歴史・物語

10 大師流
大師流とは筆道流の一つで空海を師とする。さらに、大師流の流れを汲む賀茂流があり、社家出の成定、大使流（伝）初代には敦直がおられる。上賀茂神社バス停前の「賀茂大社」や上賀茂小学校の銘板はこの書体で書かれている。1-6)



※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。
京都市 景観情報共有システム 検索

歴史的資産・建物

■上賀茂神社周辺の寺跡

（聖神寺、神宮寺、観音寺、金堂寺、唯明寺、楽音寺、能寂寺、大乘寺）明治時代の廃仏令が出される前まで、上賀茂にも多くのお寺があった。1-7)

3 洛北発電所
社家の家に生まれた西池成義氏が「人々を労働から開放したい」という思いのもと、明治41年に静海市市原町に私費で築造した水力発電所。水路式でダムを有しない方式で、電力は当時、電車にも使われたといわれる。



まさに京都の近代化遺産といえる。

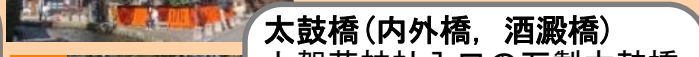
4 上賀茂小学校の門
350年前に藤木社の東に社家の集会所の門として建てられたもので明治時代には村役場となり。昭和の初めに現在の場所に移された。



5 もとは郵便局。引戸や鬼瓦に郵便のマークがデザインされている。



6 明神川を守る藤木社
楠は樹齢500年と言われる。



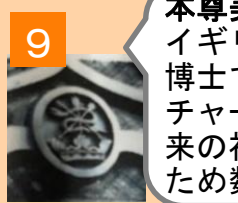
7 太鼓橋(内外橋、酒澱橋)
上賀茂神社入口の石製太鼓橋。明神川は境内では手水として利用することから「御手洗川」とも呼ばれる。神社を出て社家町に入ると明神川になる。



8 上賀茂神社から移設されたと伝えられる門



9 本尊美君碑
イギリスの日本学者・法学博士であるボンソンビ・リチャードの邸宅跡。日本古来の神道を全世界に広めるため数多くの著作を残した。



町並み・風景

藤の木通り（明治2年の地図に見られる）

西側は社家住宅のほか、数奇屋風住宅、町家、土蔵などが多く建ち並び、町並みを演出する明神川と石橋、土塀、門などが共存し、上賀茂社家町を代表する景観を形成している。



上賀茂神社から流れ出る明神川沿いの土塀と石橋。明神川の水を引き込み、敷地内に池庭を作り、そこで禊を行う。邸内社祠を建て、水の神様の貴船神を祀る。山手側は、枯山水の庭を造り、井戸を掘ることで水を得ている。



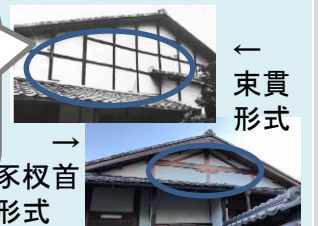
上賀茂神社の鳥居より高い建物は建てられなかったため、塀越しの庭や平屋または厨子2階建（2階の天井が低いもの）の建物が多い。



社家の中には従前は僧院であったところもあり、丸い柱がその名残を残している。薬医門に入ると右手に式台（玄関）左手に大戸口（勝手口）がある。



妻飾りは、杵杵首を組み、その上に斗を乗せて棟木を設ける形式と、束と貫を縦横に組み合わせる形式の2つに分けられる。いずれも妻壁は白漆喰で塗られている。



藤木社より東側には、長屋門と入母屋屋根の書院を有する梅辻家と、望楼を有する井関家の社家住宅が建ち並び、町家と農家も混在する。

明治中期の地図に見られる通り

社家、農家、町家、和風の様式の住宅が混在している。土壁や樹木などの要素が連なり、落ち着いた通りとなっている。



地域活動

11 流し雛
上賀茂神社では、桃花神事の後、地元子どもたちの無病息災・交通安全を祈願して、渉溪園の小川で流し雛が行われる。1-8)



12 明神川行燈フェア
地元の子供たちが作った行燈を明神川に並べて点灯。2011年に始まり、今は上賀茂自治連合会主催のイベントとして定着している。1-9)



■上賀茂学区 (東側・南側)

凡例：

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

- ・東は深泥池，南は植物園，西は賀茂川と豊かな自然に恵まれた地域。
- ・昭和6年，植物園の建設をきっかけに，何回かの区画整理が実施され，町並みが整備されていった。
- ・土地に根付いた信仰の神社や祠がたくさん存在する。
- ・年中さまざまなお祭りや行事が催されている。

町並み・風景

- 1

区画整理と生産緑地
賀茂川と高野川に囲まれた一帯は，上賀茂神社の社家・農家の集落と，糺の森に包まれた下鴨神社があるだけで，他は見渡す限り田畑が続いていたが，1963年から北山通の北側の区画整理が行われ，宅地と生産緑地が広がった。2-1)
- 2

北山通
昭和初年に市街地拡大の都市計画道路として計画され，1985年に全線開通した。幹線道路として十二間幅（約21.8m）で造られたため，地元では十二間通という愛称でも知られる。「北山ハロウィン」はたいそう賑わう。2-2)

自然・環境

- 3

深泥池
鞍馬・貴船への道（丹波街道）のほとりにある池。氷河期からの動植物（遺存種）が数多く生き残っており，国の特別天然記念物に指定されている。行基がこの地で修行した際に池の上に弥勒菩薩が現出した伝説から「仏菩薩池」「御菩薩池」とも書く。
- 4

大田神社
賀茂最古の神社と伝わり，天宇受売命（天鈿女：あめのうずめのみこと）が天岩戸の前で神楽を行ったことから芸の神様として崇められている。毎月10日には神事「大田御神楽」として地元の方による御神楽（別名「ちゃんぽん神楽」）が舞われる。地元の役持の限られた間柄で代々継がれまもられてきた。神殿の拝殿は珍しい割り拝殿造となっている。2-3)

境内の大田の沢のカキツバタは平安時代から歌に詠まれており，平安後期の歌人藤原俊成が詠んだ「神山や 大田の沢の かきつばた ふかきたのみは 色にみゆらむ」の歌が有名。尾形光琳のカキツバタ屏風で世間にも広まった。

伝統・文化

■賀茂の農家の野菜文化

春から夏にかけては「振り売り」といって，賀茂茄子やトマトなどの多品目の野菜を生産し，上京・中京・下京あたりのまちなかに売りに行く。冬はすぐきを大量に生産する。上賀茂神社では，賀茂なす豊作祈願や，賀茂なす奉納，すぐき神輿等がある。すぐき神輿はしばらく途絶えていたが，農家の若い世代で立ち上げた「上賀茂特産野菜研究会」により近年復活した。2-4)



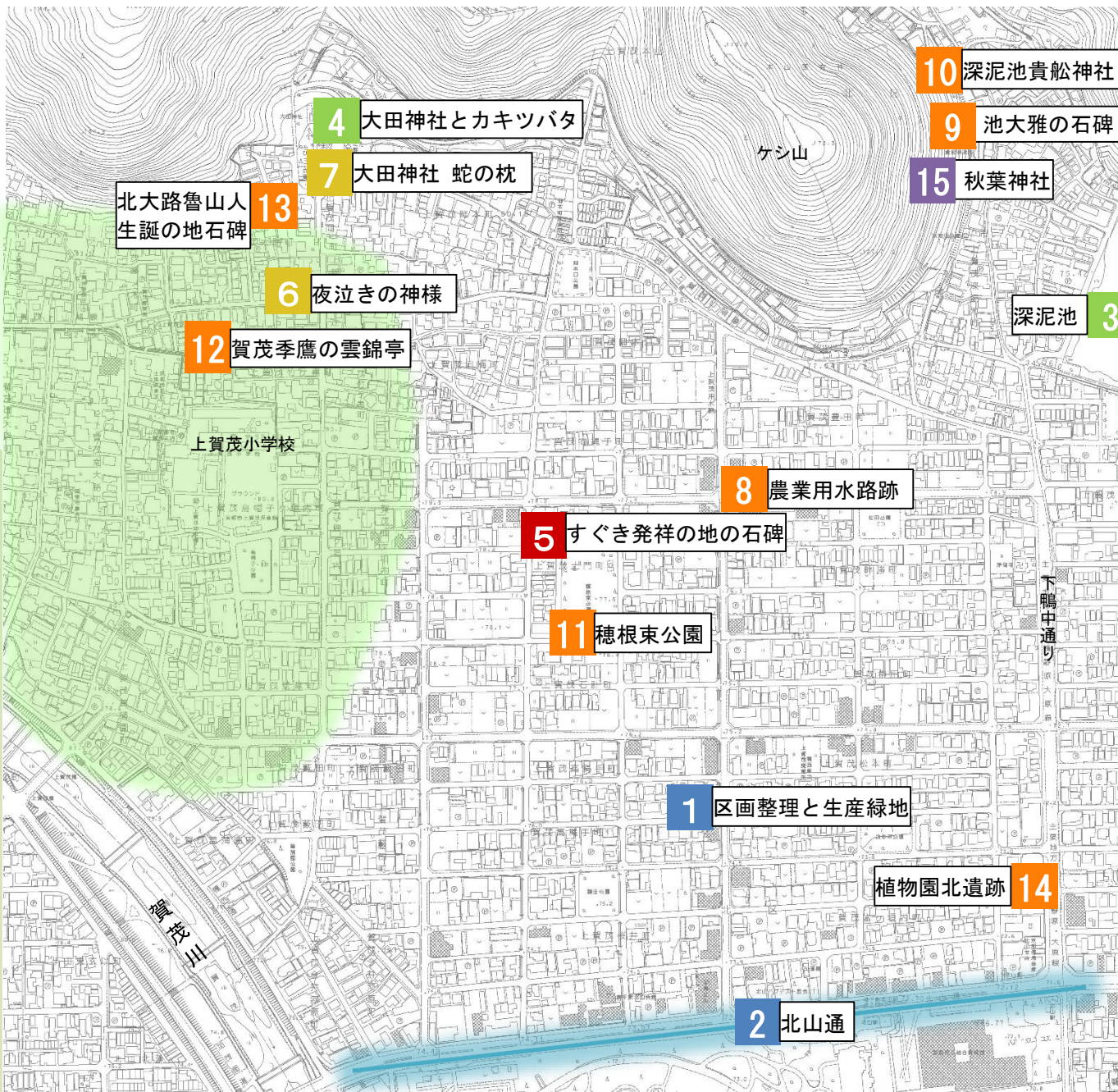
すぐき農家住宅が多く見られるエリア

すぐきづくりの農家は，住宅の横の作業場と醗酵室ですぐきを製造し，樽ごとを漬物屋に出荷している。賀茂川沿いや中大路通沿いなどには，作業場を備えた広い敷地の農家が多く残っている。2-5)



5

すぐき
発祥
の地
の
石碑



※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。

京都市 景観情報共有システム

検索

歴史・物語

- 6

夜泣きの神様
母を亡くして夜泣きする赤子のために母をまつる社を建てたところ夜泣きが止まったと伝えられる。
- 7

大田神社 蛇の枕
「蛇の枕」，「雨石」と呼ばれ，蛇が枕にしていたと伝わる。蛇は雨を降らせる生き物とされ，この石をたたくと雨乞いができると考えられていた。

歴史的資産・建物

- 8

農業用水路
社家集落内を流れる水は下流の農地で再利用できるような仕組みとなっており，農業用水を兼ねていた。現在もその名残が見られる。
- 9

池大雅 生誕ゆかりの地記念碑
江戸時代中期の「南画の大成者」と称される池大雅は，深泥池の畔で生まれたと伝えられ，地域の誇りとして石碑が建てられた。2-6)
- 10

深泥池貴船神社
貴船の本宮が洛中からあまりにも遠く，参詣が大変であったため，深泥池の農民らが勧請し，寛文年間(1660-1670)の10月23日に御分霊が行われ，ここに祀られたと伝わる。2-7)
- 11

穂根東公園
戦国時代初期から骨塚と記されていた。昭和46年より上賀茂向縄手町などの3つの町となり，ほねづかの町名は無くなった。
- 12

賀茂季鷹の雲錦亭
曲線の白壁，塀が特徴的。賀茂季鷹は幕末の著名な国学者，宮廷派の最後の一人で，狂歌にも長じていた。邸内には雲錦亭と名づけた学問所を造り，国学や和歌の研究を行った。2-8)
- 13

北大路魯山人誕生の地石碑
魯山人は社家の出身の料理家・陶芸家。賀茂から数多く出ている偉人の一人である。

- 14

植物園北遺跡
植物園の北側一帯に広く分布する大規模な集落跡。遺構は弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴式住居や，奈良・平安・鎌倉・室町の各時代の遺構も検出されている。加茂氏にゆかりのある遺構とも考えられている。2-9)

地域

- 15

秋葉神社
近年すぐきの石碑が建てられた。



神社周辺

- 1-1 『未来へ続く歴史の町並み』（平成13年）伝建地区とまちづくり. 全国伝統的建造物群保存地区協議会編著 ほか
- 1-2 『京都大辞典』（昭和59年）株式会社淡交社 ほか
- 1-3 京都市HP 御園橋 ほか
- 1-4 京都市HP 指定・登録文化財－無形民俗文化財－
- 1-5 上賀茂特産野菜研究会HP
- 1-6 『書道大師流草考』（昭和60年）下橋孝敬 著
- 1-7 『京都府愛宕郡村志』（明治44年）京都府愛宕郡、『都名所図会』（安永9年）など
- 1-8 「上賀茂自治連だより」（平成30年3月）、京都市HP(北区)
- 1-9 京都市北区HP

※（賀茂競馬，やすらい祭） 写真提供：京都府職労働組合 京都の写真館

東側・西側

- 2-1 京都市HP 区画整理事業
- 2-2 同上ほか
- 2-3 『日本歴史知名大系代二十七巻 京都市の地名』（昭和54年）株式会社 平凡社 ほか
- 2-4 「上賀茂自治連だより」（平成30年3月）、京都市HP(北区)
- 2-5 同上ほか
- 2-6 「上賀茂自治連だより」（平成30年3月）、京都市HP(北区)
- 2-7 境内説明板「深泥池貴船神社の由来」より
- 2-8 『京都府愛宕郡村志』（明治44年）京都府愛宕郡
- 2-9 フィールドミュージアム京都HP